

THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



創立 1954年 3月 8日
承認 1954年 3月 30日

例会日時 毎週月曜日
12:30 ~ 13:30
例会場 刈谷市新栄町 3 の 26
刈谷商工会議所内
事務所 TEL (0566) 22-2111
FAX (0566) 25-2111
メール kariyarc@katch.ne.jp
ホームページ http://www.kariya-rotary.com
会長 岡本 巧
幹事 神野 公秀
会報委員長 兵藤 文男

2009 ~ 2010年度 国際ロータリー John Kenny (ジョン・ケニー) 会長テーマ

The Future Of Rotary Is In Your Hands ロータリーの未来はあなたの手の中に
(この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。)

第2656回例会プログラム

[当年度=16回目; 当月=5週目]

2009年(平成21年) 11月30日(月)

1. 例会……………〈司会: プログラム委員会〉

- 12:28 1. チャイム
12:30 2. 点鐘……〈会長〉
3. 開会宣言
4. ロータリーソング斉唱
……手に手つないで
5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介
6. 食事

- 12:45 7. 会長挨拶並びに会長報告
8. 新入会員挨拶……山下^{やました} 雅則^{まさのり} 会員
吉岡^{よしおか} 秀記^{ひでき} 会員
9. 幹事報告
10. 出席報告
11. 委員会報告
12. ニコニコボックス報告
13. 次週並びに次々週のプログラムの予告
(12/7) ……クラブ総会
次年度理事・役員選出
(12/16) ……クリスマス家族会(親睦活動委員会)
18:00 ~ ヒルトン名古屋
※12月14日(月)の例会変更分です。

- 13:00 14. 本日のプログラム
卓話 「絵葉書で見る明治・大正・昭和の刈谷」
講師 刈谷市郷土資料館
郷土文化指導員 野々山^{ののやま} 国広^{くにひろ} 様
(紹介者 南 健 会員)

15. 謝辞
16. 点鐘……〈会長〉
17. 閉会宣言

- 13:30 18. 散会

ビ ジ タ ー

森 榮 様 (一宮中央 RC)
黒田 勝基 様 (高浜 RC)

出 席

会員総数 96名 出席免除 25名
出席義務者+免除者の内例会出席者 89名
欠席 8名 出席率 91.01%
前々回 (11/9) の修正出席率 100%

会 長 報 告

- 1) 11月23日、月曜日にガバナー補佐杯がありました。
クラブ例会は、加藤真治様が優勝致しました。
2) 刈谷中央図書館より、図書購入一覧がとどきました。

幹 事 報 告

- 1) 本日、山下会員、吉岡会員が入会されましたので
会員数は96名となります。尚、山下会員は親睦活動
委員会へ、吉岡会員はクラブ会報・IT委員会に配
属させていただきます。
2) 本日例会終了後、事務局にて第6回理事会を開催
させていただきます。関係者の皆様よろしくお願い
致します。

会 長 あ い さ つ

「失敗はチャンス」

岡本 巧



世界のホンダの本田宗一郎さんは、
失敗について、こう語られています。
「失敗というのは、自分が失敗だ
と認めて、やめた時が失敗だ。失敗
とは経験。失敗することによって経
験を積んで、より新しいことができ
る。それは失敗ではなく、成功のプ

ロセスだ。諦めたときに、失敗がある。だから、自分は死ぬまで失敗しない。死ぬまでやり続けているから。」

新入会員の紹介



氏名 山下 雅則
生年月日 昭和42年10月18日
推薦者 内藤 耕造
職業分類 衣料品販売
事業所名 株式会社 十福屋
役職名 代表取締役社長
所属委員会 親睦活動委員会



氏名 吉岡 秀記
生年月日 昭和40年9月16日
推薦者 杉浦世志朗
職業分類 建築設計
事業所名 有限会社ドルフィンスクエア
役職名 代表取締役
所属委員会 クラブ会報・IT委員会

卓話

温故知新 —絵はがきでたずねる明治・大正・昭和の刈谷—

刈谷市郷土資料館 郷土文化指導員 野々山国広 様



今回、プログラム委員長の南健様から11月30日(月)第2656回の例会で卓話をしてくれないかと依頼を受け、最初はお断りしましたが、退職した自分自身のよい経験の場ではないかと考えお引き受けしました。南様から依頼されたテーマ「温故知新」にも心が動きました。日ごろから刈谷市郷土資料館の活動や展示についてどうしたら多くの方々を知っていただくことができるかと思っていたからです。無事卓話を終えて、本当によい機会を与えていただいたと、改めて感謝申し上げます。

刈谷市郷土資料館には、刈谷市民の皆様はじめ周辺の方々から貴重な文化財の寄贈があります。資料館では、それらの受付、整理、収蔵をし、時期を見て企画展を開催しています。今回紹介しましたものは、平成20年度に市内の旧家から寄贈された13種87枚の絵はがきで、平成21年5月2日(土)から6月14日(日)まで行った企画展「絵はがきでたずねる明治・大正・昭和の刈谷」の資料です。

1 変わるものと変わらないもの

寄贈された絵はがきは、明治・大正・昭和の刈谷の名所旧跡の紹介やさまざまな催事や事業の完了記念品として関係者に配られました。明治維新の刈谷藩士の肖像、明治・大正から昭和の戦争前までの刈谷市内の風景や建造物など貴重な写真の絵はがきでした。この絵はがきの様子が現在どのように変わっているか、あるいは変わっていないのか。そして、それらの比較から何が考えられるか問いかけて見ました。たとえばこんなものです。

(1) 刈谷城跡の風景



(大正初期)

⇒



(現在) 亀城グランド交差点西角から

(2)

(2) 松秀寺朝鮮式鐘樓門

(大正3年完成)

東洋建築の泰斗たる伊藤平左衛門氏の設計建築の山門
朝鮮式黄鐘調の梵鐘が懸けられた。



(3) 刈谷町銀座中町

大正13年7月刈谷城跡で開催された「中部日本興国博覧会」の記念はがきで稲徳酒造が発行した絵はがき。



(大正13年ごろ)

(4) 豊田佐吉翁銅像



(昭和7年) 銅像除幕式記念はがき

(5) 刈谷市郷土資料館



(昭和2年完成)

建築家大中肇の設計、鉄筋コンクリート建築。

2 刈谷の気風

今回、卓話のために企画展の資料を読み返して、刈谷の気風・風土ということを考えてみました。豊田佐吉が紡織機の試験工場を武豊に求めたときは地主から断られてしまった経緯がありました。ところが、刈谷でその話が進められたときは、買収に尽力した人たちも土地を提供しようとする地主のみなさんも新しいことに期待する気持ちにあふれていたと聞きました。10万坪の土地を提供した刈谷には、豊田佐吉の『障子を開いてみよ。外は広いぞ。』という声が聞こえていたのではないのでしょうか。

また、大中肇が刈谷に建築事務所を開設して独立するまでの意欲を見せたのは、刈谷という土地柄・気風というものを感じ取り、自分の能力を遺憾なく発揮できると確信していたのではないのでしょうか。

刈谷にはそんな新しい考えや物事を受け入れる気風や風土があるのではないのでしょうか。幕末から明治にかけて活躍した藩士や士族の方々、藩の御用を受け継いできた商人や医者たちがたくましく活動する中で築き上げてきたものではないのでしょうか。もちろん、第1産業に携わる人々がそうした気風を日々の生活の中で体得していったことを忘れてはいけないと思います。

最後に、良い機会を作っていただいた南健様、いや「NANKEN」君はじめロータリアンの皆様がますます活躍され、ロータリーの輪が大きく強固になることを期待します。

11月度刈谷 RC ゴルフ例会

平成21年11月23日(月)

於：葵カントリークラブ

成績	氏名	G	H	N
優勝	神谷 光義	89	12	77
2位	天野 櫻子	86	5	81
3位	加藤 真治	96	13	83
(繰上げ優勝)				
B B	鈴木 豊	104	10	94

※1位、2位は既に優勝している為、3位が繰り上げ優勝となりました。

